

2016年6月13日

助成事業実施報告書

団体名在宅ホスピスボランティアさくら.....
代表者・役職名 氏名 代表 中村克久.....

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

在宅ホスピスボランティアの募集と地域包括ケアの市民への啓蒙の後援会

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

終末期の患者には医療や介護の専門家のケアの他に心理的苦痛や社会的問題に耳を傾けるケアが必要でありその様な活動を無償で行うボランティアが有用であると代表の中村が2008年に設立しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当初は末期がん患者とその家族にむけ予後と心のケアの講演会を開催する予定でしたが講師の都合がつかず、ボランティア募集と研修会に変更しました。ヒヤリングで説明しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

3回の研修を行いました。第1回目は至誠ホームの大村洋先生で演題は「ボランティアとは」第2回目は聖ヶ丘病院地域連携部長大田いくさんの「ホスピスボランティア」第3回目が在宅ホスピス医の井尾和雄さんの「後悔しない最期の時の迎え方」でした。最終回はさくら代表のボランティアさくらの理念とボランティアコーディネーターの岡田美佐子が活動の実際について講義しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

参加者17名のうち3回全ての受講者は14名でした。修了者には修了書証書を手渡し特別擁護施設のボランティア活動に早速参加してもらいました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

本プロジェクトは立川市社会福祉協議会に評価され、平成28年度の「東京ホームタウンプロジェクト」の支援を受けることが決まりました。その結果、私たちは本プロジェクトによりボランティアの課題と人材の育成について専門家の指導を受けることが出来るようになりました。地域包括ケアの普及は私たちの活動に追風で利用者のニーズは高まっています。ボランティア人材の確保と育成を急ぎたいと思います。